

授業改善推進プラン（各教科）

	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育	外国語
課題	<ul style="list-style-type: none"> 文章から読み取ることはできているが、その中から重要な情報を取捨選択することや構成を考えながら分かりやすい文章を書く力が十分でない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 内容の一つ一つの事実を理解していても、それらを関連付け、論理的に結び付けて一つの社会的事象と捉えることが十分でない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章問題の読解が十分でない児童や、単元が変わると忘れてしまう児童がいる。(低学年) 「量と測定」「図形」の単元を苦手を感じる児童がいる。 「数量関係」の系統単元の定着に課題がある。(中高学年) 	<ul style="list-style-type: none"> 予想、観察・実験、考察という学習の仕方に十分慣れていない児童がいる。(中学年) 根拠をもって推論する力、実験結果から考え、まとめる力を高めていく必要がある。(高学年) 	<ul style="list-style-type: none"> 自然に関する様々な体験や活動が十分でない児童がいる。 考えたことを書いたり、発表したりに、苦手に感じている児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや意図をもって音楽的な表現をすることに課題がある。 演奏の中での音の役割を考え、演奏することが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 用具や材料の基礎・基本的な扱い方が身に付いている児童とそうでない児童がいる。 感じたことや発想したことを表現したり、発表したりすることを、苦手に感じている児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 習得した知識や技能を家庭生活で活用することが十分でない児童がいる。 技能面では生活経験により個人差がある。 製作や調理実習で、後片付けを前向きに行えない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアやグループ、チームでの話し合いや伝え合いが十分にできない児童がいる。 俊敏性や持久力、体幹が十分でない児童がいる。(体力テストより) 	<ul style="list-style-type: none"> 英語を使って友達やALTと積極的にコミュニケーションをとることが苦手な児童がいる。 ALTの英語での発問を理解できない児童がいる。 中学年の35時間実施に向け、指導内容の研究が必要である。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> 段落相互の関係を押さえながら、常に読み取った内容について根拠を示すよう指導する。 様々な種類の文章を読む機会を設けたり、いろいろな種類の文型を使って文を作ったりさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入段階での疑問を大切に、知ることの楽しさを味わわせるとともに事柄を常に意味と関連付けて考える学習を展開していく。 資料を読み取り、考え、判断する学習を様々な場面で意識的に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を揭示し、想起しながら学習できるようにする。文章問題の場面図などで提示する。(低学年) 具体物を使い、量感を大切にしながら、授業を進め、作業時間を十分に確保し、技能の定着を図る。 繰り返しの指導を行うとともに、日常生活と関連付けて学習を進めていく。中学校に向けて、特に「基準量・比較量・割合」の定着に重点を置く。(中高学年) 	<ul style="list-style-type: none"> 学習過程を丁寧に進め、ノートにまとめさせる。生活体験と関連付けて考えさせる。(中学年) 実験・観察方法を考える、結果の予測をする過程を大切に、論理的に考えるように導く。その後の実験・観察の目的をはっきりさせる。(高学年) 	<ul style="list-style-type: none"> 植物・生き物の世話、観察を定期的に行い、その成長に気付かせる。 保護者や地域の支援を活用しより多様で安全な体験活動をする。 体験の前後に意見交流（話型を使って）を行い、考えを発表しやすくする。 	<ul style="list-style-type: none"> 発問やワークシートを工夫することで表現力の向上を目指す。 ペア学習やグループ学習を増やし、学び合う場を設けたことで一人一人の技術を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い題材を取り入れ、様々な用具や材料に触れる機会をつくる。既習事項と関連させ、児童と共有し、系統的な指導を行う。 資料やワークシートを活用し、鑑賞活動を多く行うことで、考えのまとめや発想の手だてとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活から課題を発見し、実践的・体験的な学習を通して学べるようにする。 日常生活を振り返る活動を増やし、課題意識をもてるようにする。 生活経験が少ない児童にも分かりやすく扱いやすい教材を選択する。 実習を行う際には、後片付けまで協力して行うよう手本を示しながら指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> チームで作戦を考えたり、友達のよい動きなどを振り返ったりする活動を多く取り入れ、伝え合う活動の充実を図る。 児童が継続して取り組めるような遊び・運動を全校で実践し、体力向上への手だてとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ALTや友達とのコミュニケーションを英語で楽しめるよう、ゲームやチャンツをより一層工夫する。 場面に応じて、英語と日本語の指示を使い分け、児童が負担なく外国語活動に取り組めるようにする。 高学年の指導内容とのつながりを考え、中学年の指導内容を作成する。
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> 読書 言葉集め(低・中学年) 意味調べ(中・高学年) 	<ul style="list-style-type: none"> 地域での課題調査 都道府県を覚える 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習内容をプリントやドリルで復習する。 		<ul style="list-style-type: none"> あさがおや野菜の観察と世話をする。 			<ul style="list-style-type: none"> 学習したことの実践。 		